



みなと
ホールディングス
Minato Holdings, Inc.

カジュアル・アカデミック、「哲学」と「社会」をつなぐ会社。

哲学サロン

本格的に哲学を学び始めたい人、生涯学習の一環として哲学を学びたいと考えている人向けの読書会

哲学に興味・関心をお持ちの方が少しでも気軽に本物の哲学に親しんでいただけるよう、様々な読書会をご提供しています。

参加者は「入門」「初級」「中級」「上級」の中から自分のレベルに合ったものを自由に選択することができます。

入門では、「哲学カフェ」のように、或るキーワードについて話し合います。初級では、手軽に読める短めのテキストをベースに、自由に意見を交わしましょう。中級では、複数回に分けて、哲学の古典的名著を読み解いていきます。上級では、哲学の専門書をじっくり精読します。

現行ラインナップ

- 『読書について』ショーペンハウアー（堤田泰成：ショーペンハウアー哲学）
- 『永遠平和のために』カント（大橋容一郎：カント哲学）
- 『啓蒙とは何か』カント（勝西良典：倫理学・ビジネス倫理学）
- 『純粹理性批判』カント（浜田郷史：カント哲学）
- 『存在と時間』ハイデガー（丹木博一：ハイデガー哲学）
- 『告白』アウグスティヌス（樋笠勝士：美学・中世哲学）
- 『方法序説』デカルト（田村歩：デカルト哲学）
- 『眼と精神』メルロ・ポンティ（柿沼美穂：メルロ・ポンティ哲学）

今後の予定

- 『ツァラトゥストラはこう言った』ニーチェ
- 『論理哲学論考』ヴィトゲンシュタイン
- 『聖書』 etc.

いずれの読書会も、教授や名誉教授を中心とした「**哲学の専門家**」が主催しているので、学術的な専門性は保証されています。入門書や概説書、独学だけでは分からない、哲学の本当の面白さにぜひ触れてみてください。

※現在、緊急事態宣言が出されるなどの状況に鑑みて、**zoom**を利用した「**オンライン哲学読書会**」を開催しております。

入退出自由の、オープンな読書会です。（匿名参加も可能ですが、セキュリティの都合上、お申込みの際に個人情報をいただいております）

読書会には必ず一人**専門家**が参加しており、直接意見を交わせる読書会となっております。

スケジュールや参加方法等、詳細は弊社ウェブサイト (<http://minato-h.com/>) よりご確認ください。



サロンスケジュール(8月・9月)

8/1:【入門】『平和ってなに?』

モデレーター:秀島真琴、伊勢俊介

参加費

入門:各回 500 円(税抜)

(初めての方は無料でご参加いただけます)

初級・中級:各回 1,000 円(税抜)

8/8:【中級】『告白』(アウグスティヌス)1/3 回(全 3 回)

専門家:樋笠勝士(岡山県立大学教授、美学・中世哲学)

8/22:【中級】『告白』(アウグスティヌス)2/3 回(全 3 回)

専門家:樋笠勝士(岡山県立大学教授、美学・中世哲学)

8/29:【初級】『哲学原理』(デカルト)

モデレーター:伊勢俊介、専門家:田村歩(茨城工業高等専門学校助教、デカルト哲学)

9/5:【中級】『告白』(アウグスティヌス)3/3 回(全 3 回)

専門家:樋笠勝士(岡山県立大学教授、美学・中世哲学)

入門「平和ってなに?」【オンライン哲学サロン】

平和は、一般的に戦争の対立概念と考えられているでしょう。

でも、どんなふうに対立しているのでしょうか?

例えばホッブズは、平和を「戦争の無い状態」と考えます。

一方カントは、平和を「敵意の無い状態」と考えているようです。

でも、そのように平和を消極的に規定しないこともできるでしょう。

平和は積極的な何かで、戦争が「平和の無い状態」なのかもしれません。

今日、私たちは平和をどのように考えていけばいいのでしょうか。

一緒にさぐってみませんか。

初級『哲学原理』デカルト【オンライン哲学読書会】

17 世紀フランスの哲学者ルネ・デカルトは、従来のアリストテレス的=キリスト教的な哲学(中世哲学)を解体し、まったく新たな哲学の構想を試みました。その結果デカルトは「近世哲学の父」と称されることとなり、その影響力の大きさは、後世の名だたる哲学者たちのなかで彼に言及しなかった者を見つけるのが困難なほどです。

今回扱う『哲学原理』は、デカルトの「新たな哲学」をわかりやすく説く教科書として執筆されたものです。従来の哲学を完膚なきまでに叩きのめした「方法的懐疑」という知的な装置を使いつつ「われ思う、ゆえにわれ在り」という有名な格言にまで至った思考の流れが、本書では簡潔明瞭に記されています。内容は骨太ですが、専門用語はほとんど出てこず、読みやすいです。哲学の古典に触れたいと思われる方は、この機会にぜひ。

中級『告白』アウグスティヌス【オンライン哲学読書会】(1/3 回)

わたしたちは様々な人と語ります。それは仕事の言葉であつたり、愛の言葉であつたりという風に人間関係と共にあります。それらの言葉は生活することに大きな影響を与えます。他方、わたしたちは雑誌や本の言葉も読み、そこから多くの知識や思想を受け取り自らの生活に活かしたりします。これらの言葉は自分の生活に直結した役立つ言葉であると言えるでしょう。しかしそれだけではありません。落ち込んで歩いているときに、向こうからやってくる知らない二人連れが何か話し合っていて、通りすがりに「やってみればよいじゃないか」という声が聞こえ、これがきっかけとなってやる気が出るときもあります。言葉は、人間に対して行動を導き、心を励まし、癒やし、そして解釈を促すのです。このような「言葉の経験」を考えます。

第一回

哲学では客観的な文章が多く、例えば「人間の本质は・・・」といった3人称が多い中で、アウグスティヌスの『告白』は古代には珍しく1人称で書かれています。「わたし」はアウグスティヌス、「あなた」は彼にとっての神です。このような1人称形式の文体は親しみやすく長く読まれてきました。近代では、デカルトの「自我(コギト)」の1人称性、ルソーの『告白』の「内的な自己」、宗教改革者ルターの、自己と神との直接的関係性、そして現代では、アーレントによる時間的実存の「わたし」のように、多くの影響を与えました。『告白』は多くの哲学的主題をもっていますが、まずは、『告白』の基本的特徴をおさえた上で1人称の「わたし」を考えたいと思います。

第二回

『告白』には、アウグスティヌス自身の様々な「言葉の経験」が語られています。ある時は親や友人など周囲の人々の言葉、また別の時にはギリシャ哲学や聖書の本の言葉、そしてある時は子どもたちの遊ぶときのかけ声の言葉です。これらがアウグスティヌス自身に解釈活動を引き起こし、経験の意味を深めさせ、新たな思索活動へと導きます。このような経験は特別のものではありません、われわれの日常生活にもあるものです。問題は、言葉から何を受け取るのか、言葉をどのように扱うのか、言葉の意味をどのくらい深められるのか、最終的には「意味」とは何なのか、「意味」に「愛」が関わる不思議さとは何か、といったことが問われます。

第三回

世界には歴史があります。しかしそれ以前に重要なのは、人間の子どもから大人になり生涯を終えるまでの個人個人の歴史です。否、もっと重要なのは、人間の内部にある時間性、つまり過去から現在を経て未来へと進む内面的な「私」の意識の時間性です。意識にとって過去は記憶と想起の働きの対象です。懐古したり後悔したりしながら経験を積み上げて「私」をつくりあげます。意識にとって未来は期待の働きの対象です。将来を思い浮かべる意識には不安もあれば希望もあります。この両者を繋ぐ地点が意識にとっては注意の働きをもつ現在です。このような「私」の意識と直結する主観的時間論は哲学史上初めてです。これを考えます。

みなと学びサロン

様々な分野の専門家との交流の場

みなと学びサロンでは、各種学問領域や社会の様々な分野でご活躍中の専門家の方々を、分野の垣根なく講師としてお招きし、みなさまの「知的好奇心」「問題意識」などにお応えすることのできる場をご提供させていただきます。

ひとつの分野にとらわれることなく、船で世界を旅するように、いろんな領域の「ほんもの」に触れてみませんか。

ときにはカフェで話し合うように、ときには講義のようなかたちで、ときには現場で実践的に。

本格的な専門知識の交流の場に、ぜひご参加ください。

8/28 [タイトル未定](#)

専門家:[湯浅誠](#)(東京大学特任教授、全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長)

9月 [タイトル未定](#)

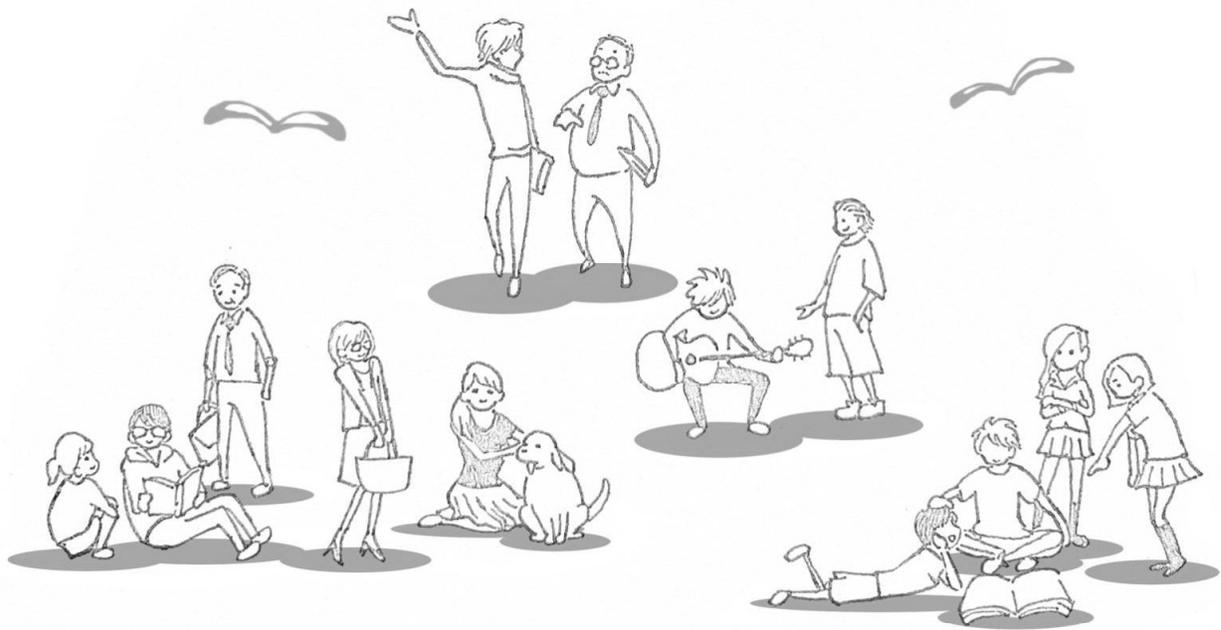
専門家:[要友紀子](#)(SWASH 代表)

9/12 [「さらば東大!～最首先生と考える学問の意義～」\(仮\)](#)

専門家:[最首悟](#)(和光大学名誉教授、社会学)

9/19 [「社会的課題に苦しむ当事者に響く哲学探し」](#)

専門家:[今一生](#)(ライター・編集者、[学術書チャリティ](#))



【運営：みなとホールディングス株式会社MINATO Holdings, Inc.】

住所：〒104-0031 東京都中央区京橋2-7-14 BUREX京橋801号

メール：minato.h.inc@gmail.com

ウェブサイト：<http://minato-h.com>

